

## 令和5年度 第2回 よこすか地域支え合い協議会 会議録（要点筆記：公開用）

開催日時：令和6年（2024年）3月8日（金）13：30～15：30

開催場所：横須賀市立勤労福祉会館（ヴェルクよこすか）第1会議室

出席者：【構成員】松尾 健一、森 弘樹、沼崎 真奈美、春山 誉夫、九鬼 貴紀、石渡 哲也、磯崎 順子、上田 滋、白井 幸江、鈴木 敬、高橋 直人、清水 佳子、中山 ちひろ（敬称略・順不同）

【事務局】福祉総務課 清家 悠里、亀田 千尋、小松原 優斗、牧 まゆみ

【傍聴者】1名

### 1. 開会

はじめに、座長の司会により開会した。

次に、事務局より傍聴者の確認、議事録の作成、出欠席、配布資料の確認と説明を行った。

### 2. 議事

#### （1）前回の振り返り

令和5年9月26日（火）に行った前回の会議について、概要を事務局から説明した。また、情報共有のあった地域行事について、委員から実施結果をご報告いただいた。

#### （2）各構成員からの情報提供について

##### ①令和6年度予算における支え合い活動への支援について

事務局から、令和6年度予算の概要（令和6年2月13日公表）に基づき以下の2点について情報提供を行った。

#### ア 地域で居場所づくりの活動を行う団体への補助新設

- ・ 居場所づくりのための活動支援として、高齢者を含む地域住民が参加できるコミュニティスペースの運営にかかる活動費の一部を補助
- ・ 基本補助額は10万円で、特定条件により補助額を加算。令和6年度から3年間で市内におおむね6ヶ所の居場所設置を目標

- ・ 想定は交通の便が良く週に一度程度、気軽に立ち寄れる中規模の居場所で、特定の地域や属性等によらないコミュニティ形成を促進

#### イ 地域で生活支援を行う団体への補助拡充

- ・ これまでの6年間の補助上限を撤廃、様々な形に広がりを見せている活動の内容に応じた加算額を新設
- ・ 要支援者に限らず、困っている人を支援したいという団体の思いを応援できるような補助制度に変更
- ・ 補助制度を現行の住民主体型訪問サービス事業から一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業に組み替え

#### ②能登半島沖地震の被災地視察について

委員から、令和6年2月29日～3月1日に行った能登半島被災地視察についてご報告をいただいた。

- ・ 現地の高齢者施設では、電気が通電していないため、井戸水のくみ上げや電動ベッドなどが使用できず、介護等に大きな支障をきたしている。また、地盤沈下や建物に亀裂が入っている等危険な部分もある。
- ・ 非常用電源の確保、沈下地盤の修復方法、窓口の一元化が課題となっている。特に水、物資、電気などに関する窓口がそれぞれ異なることに苦勞されている。
- ・ 働く人の仕事がなくなってしまうことも問題で、施設がいつ再開するか見通しがつかない中で、スタッフが退職・転職してしまう状況もある。
- ・ DMAT や全国老人福祉施設協議会で組織している DWAT が現地支援に入っており、各地で活躍している。

#### (3) 各地域支え合い協議会の開催状況について

第2層生活支援コーディネーターから、各地域の支え合い協議会の取り組み状況について、資料2に基づき説明した。

#### (4) 社会資源情報の見える化について

情報共有の在り方や社会資源情報の見える化について、各構成員へ事前に行ったヒアリング及び資料4に基づき意見交換を行った。

- ・ 地域の団体から行事やイベントで講師をやってくれる人を探しているが、どんな人がいるのかやどこに問い合わせたらよいかという相談が市に増えている。市内には、横須賀市社会福祉協議会よこすかボランティアセンター、横須賀市立市民活動サポートセンター、横須賀市生涯学習センターなどで講師やサークルが活躍しているが、その情報を伝えきれていない現状もある。
- ・ コロナ禍でほぼ活動ができず、新しく民生委員児童委員になった方々は活動内容もよくわからない不安の中で活動していたこともあり、長井地区では、まず勉強会を行った。その中で、真っ先に質問が出たのが、長井地区にある〇〇協議会や〇〇部会などの組織や関連性がよくわからないというものだった。さっそく組織図をつくって一つ一つ説明をして、ようやく新しい民生委員も組織がわかって会議に参加できるようになったかなというところ。
- ・ 普段何気なく組織を略称の言葉で使ってしまうが、相手の反応を見て「しまった」と思い、説明し直すことがある。特に新しい方が集まるような場所では、なるべく丁寧に説明していなければと気を付けている。
- ・ やっていくうちにわかってくるところもあるが、訪問介護事業所の中でも、地域の組織等についてよくわかっていない事業所はあると思う。
- ・ 町内会区域の中に新しくマンションが建った際に、そのマンションで町内会自治会を作るという話だったのが結局できなかった。そうした中で、そのマンションに住んでいる方の一部から、町内会に入りたいという話がでてきた。ただ町内会に入ればいいってもものでもないので、30人の説明会を3回開いて、町内会でどんな活動をやっているのかをパワーポイントや写真を使って説明したところ、ほぼ全員が町内会に加入してくれた。うちの町内会はこういうことをしますから、ぜひ町内会一緒にやりましょうという形にしたことが後にも生きていて、今はそのマンションから民生委員を出してもらうなどいろんな連携が取れている。町内会に入る人が少なくて困るところもあるが、町内会側も入ってくれるような工夫をしていく必要があると思う。
- ・ 横須賀に新しく建設されるマンションには、市外ではなく市内の人が引っ越してきている。

- ・ 町内会のお話は、地域包括支援センターや生活支援コーディネーターが地域で活動するときに共通するものがある。やはり面と向かって近い距離で思いを伝えていくことが大事である。
- ・ ある地域は、戸建てと集合住宅でそれぞれに町内会自治会があるが、地域内でも差が大きい。集合住宅は高齢化して空き室も多く、様々な課題が生じている。一方で、すぐ隣の戸建て地区では、空き家がでるとすぐに新しい家が建ち、町内会の加入率も高い。
- ・ 近年は、大規模マンションの建設が続いている。新しいマンションができると、そこに入居するのは近隣の谷戸地域の住民が多い。市は、市街地活性化のためマンションの建設を推奨しているのかもしれないが、その施策の裏側で空き家という課題が生じている。この例は、一部の部や課が行っていることが、実は別のところで逆に課題になっているという連動性、縦割り行政の弊害的な部分を感じた。
- ・ 地域にいろいろな組織や活動がある中で、ここに行けば情報がわかるというアクセスのしやすさに対して市として何かできることはないかと考えている。市では、「横須賀市の生活に役立つ地域の情報」というウェブサイトを活用して、ここには地域で行われている有償無償のボランティアや民間事業者のサービスなどの社会資源情報を掲載しているが、例えばここに地域団体でイベントを企画されている方や地域活動を始めたい方、参加したい方、イベントを探している方の情報を新たに追加することで、探す手段を増やしていきたいと考えている。すべての情報を細かく掲載することは難しいが、ホームページのリンクを付けるなど、ワンストップで探すことができる仕組みを作りたい。
- ・ シルバー人材センターも名前はある程度周知されているが、実際にどのような活動をしているのかはあまり知られていない。会員が楽しく健康に働けるように、健康チェックや認知症、口腔ケアなどの講座を会員に向けて開催している。また、市内各地域で行われているボランティア活動などにも参加している。こうした部分の周知がまだできていないので、もっと知っていただきたいと思っている。
- ・ 生涯学習センターでは、講師やサークルの情報を提供しており、当館が行う事業をもっと広くお知らせしていきたいので、知っていただくツールの一つとしてウェブサイトに掲載してもらいたい。

- ・ 通所事業所連絡協議会ももっといろんなことを発信して生きればと思う。通所事業所連絡協議会は月に1回座談会を開催している。先の災害の話に関連して、先日災害の座談会を行ったが、自分たちだけではどうしようもない、何もできない、いろんなことをイメージするが対応できる自信がないという意見があった。自分たちだけでは限界があるので、市を含め、様々な組織とつながりを作っていきたい。
- ・ 通所事業所で地域の活動を受け入れるという話は、もう数年前から福祉部局内で共有して議論してほしいとお話ししているところ。申請時に市役所の窓口でやりたいという話をしても、そういう活動は認めませんと言われた事業者もいくつかある。その辺がもう少し柔らかくなれば、やりたい事業所がいくつか出てくると思う。
- ・ ウェブサイトについては、今の状態ではもったいないなと思っていて、ページを作ってもアクセスがどれだけしやすいかが課題だと思う。なるべく目につきやすいところや広報等にQRコードを載せる形で、すぐにページに行ける仕掛けづくりを行ってほしい。

### 3. 閉会

令和6年度第1回の協議会は、令和6年9月頃を開催することとして閉会した。

※この議事録は、委員等の発言の要点筆記である。